

大切な水

中山 陽葵

筑後市立 筑後小学校

この前の社会科見学で、矢部川浄化センター（水きらら）に行きました。初めていく場所なので、どういう処理が行われているか、どきどきしました。

話を聞いて、最も驚いたことは、二十五メートルプールの三十五杯も水が入って来ていたことです。筑後市の学校のプールとほぼ同じ量だということを聞いて、もっと驚きました。それだけ、筑後市の人が、水を使っていることです。だから、水は、生活に欠かせないものだということを学びました。

次に、処理の様子を見に行きました。水質検査の部屋では、理科室のように、試験管やフラスコがあり、厳しく検査しているというのが伝わりました。そして、地下に行き、沈殿池や、反応タンク、消毒設備の下に行きました。下水管などの、パイプがいつぱいあり、地下にいたとしても、処理されてる音が、聞こえてきました。

また、話によると、水はどんなに汚れていても、活性汚泥がすみずみまで汚れを食べて、きれいになります。そして活性汚泥の他にも、微生物が他にもいて、アスピディスカやアルセラ、レパデラ（ウサギワムシ）、マクロピオシス（クマムシ）で水を、きれいにしているらしいです。しかし、食用油を下水管に流すと、活性汚泥が弱体化し、ティッシュペーパーを流すと、下水管がつまるらしい

です。

下水処理施設できれいにされた水は、川や海に流され、蒸発され、雲になり、雨がふります。そして、ダムへ行き、川に流れ、浄水場へ行って、家や店などで使われ、また下水処理場へやってくることを「水の循環」といいます。しかし、その水の循環の一つが無くなってしまうと、全部の働きがストップしてしまいます。水を使いきると、水の供給や需要が足りなくなり、他の、家庭や店にも影響して、町の水道がストップしてしまいます。

いろいろな話を聞いて、水の大切さについて、考えてみました。いつも何気なく見ている水も、話を聞くと、宝物のように見えてきました。これからも、水をできるだけ、くり返し使って、生きていきたいと思えます。